

令和8年3月27日  
株式会社シーエス・ワンテン  
日本アムドックス株式会社

番組審議会議事録

- ・日時 令和8年3月27日（金）15時00分～
- ・場所 日本アムドックス株式会社 神谷町オフィス 会議室
- ・委員 審議委員総数 8名  
出席審議委員数 7名

（出席委員）

委員長 片岡 朋行（ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所 弁護士）

議長 江口 靖二（合同会社江口靖二事務所 代表社員／  
一般社団法人デジタルサイネージコンソーシアム 常務理事）  
石井 玄（株式会社玄石 代表取締役）  
関谷 信浩（東放学園専門学校・東放学園映画専門学校 学校長）  
野村 達矢（一般社団法人日本音楽制作者連盟 理事長）  
芳賀 康浩（青山学院大学 経営学部 マーケティング科 教授）  
平島 綾子（株式会社日経BP  
日経エンタテインメント！編集 編集長（デジタル開発担当））

（衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワンテン）

福田 泉（代表取締役社長）  
船越 昇（業務推進本部長）  
川北 桃子（編成局長）

（番組供給事業者：日本アムドックス株式会社）

梅田 昌宏（MTVジャパン代表 兼 営業部門 部門長）  
関戸 美帆（チャンネルオペレーション部門 シニアディレクター）  
戸田 裕介（チャンネルオペレーション部門 TAMディレクター）  
河内 英理也（営業部門 セールスマネージャー）

- ・審議番組 「Cross-stage Vol. 1: Aqua Timez × TOMOO」  
(※ライブ番組・密着番組の計2番組を審議対象とする)
- ・放送日時 令和7年12月6日(土) 20時30分～23時00分
- ・番組内容

MTVが立ち上げた新しいライブシリーズ「Cross-stage」の第一弾として、Aqua TimezとTOMOOによる対バンライブの様態とバックステージに密着した特別番組。番組では、会場に来られた方には当日のライブの再体験となるように、来られなかった方には会場の空気が放送でも伝わるように、MCも含めてノーカットで放送した。また、密着番組では2組の関係性をしっかりと伝え、番組を続けて見ることでライブの印象が変わるような番組制作・編成を心掛けた。

#### ・委員からの意見とMTVの回答

- 編集基準については、問題となるような表現や発言はなかった。
- 全曲ノーカットで見せることで、当日のライブの空気が嘘偽りなく伝わる内容だと感じた。
- ライブ自体の内容が素晴らしく、アンコールのコラボレーションまで、飽きることなく見ることができた。見ごたえのある内容だった。
- 全体を通して2組のファンは喜ぶ内容だと感じた。また、代表曲は知っているが詳しくはないというようなライトユーザーにとっても、満足できる番組だったのではないかと思います。
- 全曲ノーカットということで視聴者を選ぶ番組だと思うが、音楽を高関与として捉えている層に対しては、このような番組はあってしかるべきだと思う。
- 期間限定で再結成中だったAqua Timezのライブを、活動休止直前のタイミングで番組として提供できていることは、チャンネルとしても良いことではないかと思った。
- TOMOOさんのライブが素晴らしく、さらに飛躍されるアーティストだと感じる事ができた。
- お互いのファンが対バン相手のことを好きになったのではないか。そのように感じる番組であった。
- 20年以上のキャリアを持つAqua Timezが、TOMOOさんのような若いアーティストにリスペクトを持って接していることに、視聴者として嬉しさを感じるとともに、音楽を通じて世代を超える関係性が生まれるということが伝わり、番組としての意義も感じた。
- 密着番組から2組の関係性を知ることができて、ライブ本編とリンクする内容だったのは良かった。
- ライブ・密着という編成の順番、また合計2時間半という番組の放送時間もちょうどいいと感じた。
- MTVが培ってきた関係性があるからこそ実現できた対バンライブだと感じ、新しいイベントの第一弾としてはすごく良い内容だったと思う。
- TOMOOさんのルーツとなるアーティストであるAqua Timezとの対バンという組み合わせが、よくある対バンライブとは異なるMTVだからこそ実現できるブッキングだと感じた。
- 今回の2組は非常に良い組み合わせだと思った。今後も絶妙だと思うような対バンを期待したい。
- 全体を通して映像収録、音のクオリティが高い。カメラワーク、カット割りも丁寧でアーティストに対しての愛情を感じた。
- 密着番組はドキュメントとして素材のままをベースに制作している意図を感じるが、もうちょっと演出があったら、ファンの方もそうじゃない方もより惹かれる内容になるのではないかと思った。

- 例として、TOMOOさんが幼少期から姉弟でAqua Timezを聞いているという発言から、当時の写真のインサートや弟さんのコメント、2組の事前の打合せの映像や終演後のお客さんのコメントなど、密着番組としての演出の余白はまだあると感じる。
- 背景を知らずに見るとただのライブ番組に見えてしまうので、ライブと密着をまとめた一つの番組にしても良いのではないかと思った。ライブの合間に密着映像やインタビューをインサートすることで、その時点で2組の関係性が分かり、番組をより楽しく見ることができると思う。
- 新しいライブシリーズの第一弾ということで、冒頭に「Cross-stage」のコンセプト説明があると良いと思った。コンセプトを伝えることで、視聴者が番組に入りやすくなると思う。また、コンセプトを浸透させることで、今後のブッキングの際の出演者への理解も深まると感じる。
- ライブ番組において、TOMOOさんのバンドメンバー・Aqua Timezの各メンバーの名前も番組内でクレジットとして入れてもらいたかった。
- 権利問題が絡んでくるためできることも限られるとは思いますが、例えばライブ映像の切り出しを見せるなど、SNSをより活用することでライトユーザーにも番組認知を広げることができたと思う。
- 録音の問題だと思うが、密着映像で言葉が聞き取りにくい箇所があった。
- イベント・番組ロゴは改善の余地があるのではないかと感じた。
- 「Cross-stage」の企画意図、今後どういったイベントにしていきたいかを知りたい。

(MTV側)

- ・「MTV VMAJ」「MTV Unplugged」とは異なるライブのシリーズ化を意図としている。組み合わせに関しては、先輩・後輩という関係性にこだわらず、例えば次回は同世代のアーティスト同士としているが、実施を重ねていくことでコンセプトはより固めていきたいと考えている。
- ・現時点では不定期開催ではあるが、定期的な実施できる体制を構築していきたいと考えている。ただし、日程・会場ありきではなく、出演者の組み合わせを最優先にしていく方針としている。
- ・公演後にお互いのファン同士が交流し合う風景も見受けられ、実施の意義はあったと感じている。今後もお互いのアーティストとファンがリスペクトし合える組み合わせを実現していきたい。
- ・密着番組に関して、今回はあえて当日の両アーティストにフォーカスする形で番組を制作した。別日の撮影やお客さんの声をなど、考えられる演出案は今後の番組制作において検討していきたい。
- ・「Cross-stage」第二弾に関しては、ライブと密着を一つの番組にする予定で考えている。

・審議機関の答申、又は改善意見に対してとった措置、その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和8年3月27日以降、編成担当及び番組制作者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

・審議機関の答申、又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

令和8年3月以降に、シーエス・ワンテンのホームページに審議会概要を掲載、また、MTVでの放送内でも公表する予定。